

平成 29 年 度

(自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日)

# 事 業 報 告 書

学校法人 貞静学園

東京都文京区大塚一丁目 2 番 10 号

電話 03 (3943) 3711

# 目次

I. 学校法人の概要	・・・	1～2
1. 設置する学校・学科等		
2. 各学校・学科等の収容定員、現員数の状況		
II. 事業の概要	・・・	3～10
1. 貞静学園短期大学	-----	3-6
2. 貞静学園中学校・高等学校	-----	7-9
3. 貞静幼稚園	-----	10
III. 財務の概要	・・・	11～12
1. 貸借対照表の推移		
2. 事業活動収支計算書の推移		
3. 主な資産、負債の状況		

# 事業報告書

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## I. 学校法人の概要

### 1. 設置する学校・学科等

○学校法人の設立年月日 昭和16年4月28日

設置する学校	開校年月日	学部・学科等	摘要
貞静学園短期大学	平成21年4月1日	保育学科 専攻科介護福祉専攻	
貞静学園高等学校	昭和23年3月10日	全日制課程 普通科	
貞静学園中学校	昭和22年4月1日		
貞静幼稚園	昭和30年11月25日		

### 2. 各学校・学科等の収容定員、現員数の状況 平成29年5月1日現在

学校名	学科	収容定員数	現員数	摘要
貞静学園短期大学	保育学科	300人	249人	
	専攻科介護福祉専攻	40人	14人	
貞静学園高等学校		900人	520人	
貞静学園中学校		150人	30人	
貞静幼稚園		105人	146人	
計		1,495人	959人	

### (1) 役員の状況 平成30年3月31日現在

区分	勤務状況	氏名	就任年月	摘要
理事長	常勤	奥明子	平成25年4月1日	
理事	常勤	新橋成夫	平成26年4月1日	
理事	常勤	笹川康子	平成29年6月9日	
理事	非常勤	飯塚新太郎	平成23年4月25日	
理事	非常勤	小川清四郎	平成30年2月1日	
理事	非常勤	鎌田積	平成21年10月1日	
理事	非常勤	山崎義正	平成22年5月25日	
監事	非常勤	石井博文	平成27年12月18日	
監事	非常勤	針馬利行	平成25年9月20日	

## (2) 学校別の教員数及び職員数

平成29年5月1日現在

区 分		法人	短期大学	高等学校	中 学 校	幼 稚 園	計
教 員	本 務	0人	18人	35人	4人	10人	67人
	兼 務	0人	18人	40人	35人	1人	94人
職 員	本 務	0人	14人	9人	2人	0人	25人
	兼 務	2人	0人	0人	0人	0人	2人
計		2人	50人	84人	41人	11人	188人

## II. 事業の概要

### ●貞静学園短期大学

#### 1. 学生募集に関する広報活動等の充実・強化

(ア) オープンキャンパスの充実—前半期（8月まで）と後半期（9月以降）に分け、教授会主導による個別の戦略的対策を実施。

前半期は、「早期に動く受験生に特化した対応」「複数回参加に繋げる仕掛けの導入」「AO入試対策講座」「在学生プロデュースによる高校生を惹きつける企画」「保護者も体験授業への参加をはかり貞静の良さを理解していただく」等、様々な企画を行い実施した。

後半期は指定校・公募推薦入試に向けて、「志望理由書対策講座」「面接対策講座」等を盛り込み、オープンキャンパスで受験の不安を取り除くプログラムを導入した。年間を通して、専攻科介護福祉専攻もオープンキャンパスの授業に趣向を凝らし、内容の充実をはかった。

(イ) 出張授業およびガイダンスの強化。（各高等学校での授業・ガイダンス要望に対応。専任教員と事務局入試・広報課職員派遣し、オープンキャンパス参加への接続をはかる。）

平成29年4月から平成30年2月にかけて21校から出張授業・ガイダンスの依頼を受け、すべてに専任教員と事務局入試・広報課職員の複数派遣を行い、オープンキャンパスへの参加も勧め、高校教員への貞静学園短期大学のより詳細な周知を行うことができた。

(ウ) HPの有効活用への検討・充実（ウェブサイトの新しい設計を導入）

HP構築業者を変更し、新たに「オープンキャンパス参加申込フォームの設計」を行ったため、オープンキャンパス参加者の利便性が非常に向上した。

(エ) スマートフォン検索対応システムの導入およびラインによる広報活動の導入（平成28年度）の検証

平成29年度入学生に新入生アンケートを実施し、本学周知媒体について調査を行った。またHP利用状況解析ソフトを利用し、スマートフォン検索対応システムの利用状況を調査し、有効であることが検証された。さらにラインはフォロワー数が平成28年度に比して大幅（100⇒380へ3.8倍）に伸びた。インスタグラムを新たに開設し、フォロワー数のアップにつなげた。

(オ) 高校訪問・入試説明会・入試の強化

363高等学校を訪問高校として選定し、専任教職員が5月と6月に1回目の訪問を実施した。さらに9月以降も訪問高等学校を選定し、複数回訪問を行った。また、AO入試による募集定員を増加させ（10⇒20名）、早期進学先決定を希望している高校生の実情に対応した。

(カ) 貞静学園短期大学ならではの特色の充実と開拓ならびに広報活動

学生一人ひとりを大切にする細やかな指導により、2つの免許・資格取得と短期大学士としての学習成果をしっかりと習得することができ、希望の就職に結び付く授業内容が充実した短期大学であることを広報した。さらに、専攻科介護福祉専攻1年課程で

は、介護の知識・技術が修得でき、介護福祉士国家試験資格を得られることも広報した。また、授業の他に日々の生活も支援範囲とし「当たり前前」のことが「当たり前」にできる人材の育成に力を入れた。

## 2. 官学連携、地域貢献、公開講座の強化

### (ア) 官学連携

- ・東京都の委託事業である「保育士就職支援セミナー」を東京都社会福祉協議会等との連携で実施

入札により非受託施設となったため、未実施となった。

- ・文京区との連携事業として「文京区子育てサポーター認定制度のための子育て支援員研修」開催。(参加のための開発費・広報費・材料購入費等獲得)

平成29年9月30日・10月1日(土日)、平成30年1月27日28日(土・日)、計2回実施し、文京区の子育て環境充実のための人材育成に関する官学連携事業に貢献した。この事業は平成30年度も継続して実施する予定である。

- ・東京オリンピックに向けた各種取り組みへの参加(国・東京都・文京区)

学生の東京都障害者スポーツ大会へのボランティア参加を大学が全面的にバックアップし、参加者数を増やした。(1年生71%、2年生17%、専攻科15%の学生が参加)東京オリンピック・パラリンピックへ向けたボランティア精神の基礎を培っている。

- ・文京アカデミア講座、夏休み子どもアカデミア講座の実施(文京区・アカデミー文京)

①文京区キャリアアップ講座として前期「福祉住環境コーディネーター3級講座」、後期「同コーディネーター2級講座」を実施。

- ②本学専任教員が、その専門性や研究成果を生かして、文京区の外部団体である公益財団法人文京アカデミーから依頼の下記講座を開講した。多くの文京区在住就学前～小学生、保護者の教育活動に貢献することができた。

#### 【夏休み子どもアカデミア講座】

「バランスの達人～スラックラインと伝承遊び」8月に2回実施。

「アートブック(本)をつくろう!～切って・貼って・描いて～」8月に1回実施。

#### 【文京アカデミア講座】

「親子で楽しもう!運動遊び」10月～11月に計4回実施。

### (イ) 地域貢献事業の拡大

- ・地域のお祭り、大塚警察行事等への積極的ボランティア参加

①本年度も「茗荷谷町会ハロウィンイベント」に学生がボランティア参加・引率担当となり(子ども250名対象:10月15日)、併せて本学校舎も1拠点として提供し、大学所在地域への地域貢献となった。

②バルーン・アートサークルへのイベント出演依頼に応え、学生が参加した。

- ・文京区が開催するイベントへの参加

①文京区との協力協定のもと「ハートフル工房 in TEISEI」をEXPO TEISEI(大学祭・学習発表会)時に開催し、物品販売先の開拓を広げている文京区内福祉施設製作物品の販売に大きく貢献する事業となった。

- ②文京区内福祉施設利用者への「七夕折り紙講座」等実施（於：文京区役所）
  - ③平成 29 年度は「区内障害者施設体育大会」は雨天中止のため不参加となった。
  - ④昨年に引き続きオレンジリボン運動を実施した。
- ・校舎貸出（体育館等）、児童館等への出張、介護体験、介護機器の使い方や介護保険関係の講習会等実施。
- ①平成 29 年 2 月より文京区スポーツセンター改修工事に伴い、文京区内幼稚園児・小学生対象の「ジュニア体操教室」へ毎週火曜日の午後体育館を貸出、継続している。
  - ②文京区久堅児童館で本学教員の「理科分野（空気を捉える実験）」出張授業を行い、小学校低学年・中学年の生徒の理科への興味関心を深めることに貢献できた。
  - ③文京区との協定による「災害時における妊産婦・乳児の救護所」として機能するため、倉庫 2 つを非常物資設置場所として提供し、定期的に文京区職員が点検し、補充・交換等をしている。

(ウ) 各種公開講座の開講

「楽しい生け花」、「楽しいフラダンスレッスン」の受講者数が安定的に定着し、EXPO TEISEI（大学祭・学習発表会）での発表参加も恒例行事となっている。

3. 教育活動ならびに F S D 活動による教員と事務職員との連携強化

(ア) 自己点検・評価活動の継続、研修事業への積極的参加

平成 32 年に実施予定である「短期大学基準協会による認証評価」を受けるにあたって、教職員が各種研修に参加し、さらに教員各自の教育力アップのため、担当教科目との整合性のある研究論文の執筆、研究、学会発表等を積極的に行った。（専任教員業績：著書 10、論文：23、学会発表：18、その他作品発表・コンクール・社会貢献等：21）

(イ) S D 活動の活性化（事務職員の専門性の向上）

平成 28 年 3 月大学設置基準等の改正により職員の能力及び資質の向上が求められ、S D 研修が義務づけられており、本学でも平成 28 年度から S D 活動推進委員会を立ち上げ、規程を設け S D 活動を実施。平成 29 年度も 7 月と 3 月の 2 回、S D 活動を実施した。

(ウ) 新幼稚園教育要領、新保育所保育指針施行へのカリキュラム改正

平成 31 年度から実施される教育課程の改正は、幼稚園から大学までを網羅した非常に大規模な国家的改革である。平成 30 年 4 月文部科学省へ新幼稚園教育要領に基づく「再課程認定申請書」を提出するため、1 年間にわたり自己点検・評価運営委員会（委員長：学長）を中心にカリキュラム改正に向けて全学をあげて審議検討を行い、申請書類作成を行うことができた。

新保育所保育指針への移行に伴う保育士養成課程を構成する各教科目についてのカリキュラム編成については平成 30 年度への継続審議事項となっている。

4. 学生指導・支援体制の強化

(ア) 入学予定者のための入学前教育の強化

入学予定者には免許・資格取得のために必須である基礎学力向上を支える課題（文章力・読解力・漢字筆記力等）と入学後の学びに接続する課題（ピアノ、紙芝居等）について入試委員会（委員長：学長）ならびに教授会で審議を重ね、意義ある課題を課すことができた。また初心者ピアノレッスンの実施も併せて行い、合格後大学入学までのモチベーション向上に大きな役割を果たした。3月には専用プログラムと教材を準備して入学予定者オリエンテーションを実施し、大学生活への不安を払拭し入学後のスムーズな学びへ結びつけることができた。

#### （イ）特待生・奨学生制度

入学時特待生制度は募集の際の重要な要因となっている。また入学後の奨学生制度は学生の学習成果獲得への大きなモチベーションとなっており、本年度も専攻科1名、2年生2名、1年生2名の学生に、成績優秀、かつ学生としての学校行事等への貢献度等から教授会で審議・検討し、奨励賞が授与された。さらにグローバル教育行事への参加者に対して、学校法人貞静学園人材育成助成金の交付ならびに学校からの補助金交付等が実施され、参加者の経費負担につなげることができた。

#### （ウ）卒業教育のさらなる展開を図るための卒業生向けウェブサイトページの有効活用の検討・充実

卒業教育の一つとして本学卒業生が取得している准家庭教育師の学びの場として日本家庭教育学会の開催通知など卒業生向けウェブサイトページの有効活用を行った。

#### （エ）卒業教育のための同窓会との連携強化（図書事業・講演会等）

平成29年5月に同窓会を開催し、多様な年齢層の卒業生交流を行うことができた。卒業生が保育現場で不可欠であり、公共図書館等では複写が困難な書籍等の購入を同窓会が図書事業として立ち上げ、本年度も増冊されており、卒業生が図書館を訪れる契機となっている。

### 5. グローバル化の推進

#### （ア）韓国・釜山にある東洲大と国際交流の充実

平成29年度は社会情勢等を鑑み中止となった。

#### （イ）オーストラリア・ブリスベンにあるクイーンズランド大学附属語学学校（幼児教育コース）への留学の充実

クイーンズランド大学附属語学学校への夏季短期留学も本年度で3回目となり、本学保育学科学生に特化した独自のプログラムのもと、8月に2週間、14名の学生が参加し、大きな学習成果と貴重な体験を得ることができた。

### 6. 緊急時・災害時に備える

#### （ア）防災備蓄（飲料水・非常食）

本年度は備品の状況等から入れ替えを実施しなかった。



## ● 中学校・高等学校

### 1. 生徒募集活動の強化

#### (ア) 塾・中学校訪問の強化

入試広報部の教員6名と事務4名により、延べ1368校（H28、1309校）を訪問した。昨年度より訪問校が増加傾向にあり、中学校及び塾訪問共に昨年度以上の訪問回数であった。

また、昨年度から校内ランの整備、サーフェイスの導入によりデータ管理や学校説明会や外部相談会等の資料準備、部員間のデータの共有化が促進され訪問の効率化に役立てることが出来た。

しかしながら、依然と中学校の入学者数が低迷しており、次年度の取組の見直しや新たな取り組みの必要性を強く感じている。

#### (イ) 学校案内

チラシ・ポスター・パンフレットの作成では、新たな視点でのアプローチ内容や構成等に変更し、その成果を感じている。特に中学校と高校の違いを強調したパンフづくりや男女共学校のイメージ化を図り、データを前面にした構成などが好評を得た。また、ホームページのリニューアルを行い、学校説明会等への参加者の増加に大いに貢献した。（学校説明会開催時に行ったアンケート調査の「本校を知ったきっかけ」の回答で引き続きトップであった）

#### (ウ) 学校説明会、体験入学について

##### ① 学校説明会 (昨年度)

中学校・・・8回 のべ35名（のべ44名）

高等学校・・・10回 のべ955名（のべ899名）

内容は、プロジェクターを使つての教育内容の説明、生徒による学校生活の紹介、募集要項の説明、校内見学、個別相談を行った。

学校説明会開催時に行ったアンケート調査の項目「本校で魅力を感じる点」の結果では、交通の便、校風、教育方針、コース別教育課程、礼儀作法・マナー教育、以下、施設設備・共学校・制服・教員の熱意・生徒の活動であった。

##### ② 体験入学

中学校・・・1回 5名（2回 のべ15名） ↓

高等学校・・・2回 のべ209名（のべ187名） ↑

##### ③ 中学プレテスト、高校受験相談会

中学校・・・2回 のべ15名（3回 のべ21名） ↓

高等学校・・・2回 のべ80名（のべ113名） ↓

##### ④ 中学入試対策講座、高校受験対策講座

中学校・・・1回 12名（12名）

高等学校・・・2回 のべ149名（のべ271名） ↓

##### ⑤ 塾先生対象入試説明会（時期を早めて開催）

10月4日実施 120名申込み（154名の申込み） ↓

⑥入試状況

(H30.3.28現在)

	募集定員	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数
中学校	30名	30名	16名	11名	5名
H29		41名	28名	21名	7名
H28		42名	28名	21名	12名
高等学校	250名	370名	314名	309名	175名
H29		382名	338名	316名	173名
H28		446名	406名	367名	203名

2. 共学の発展

(ア) 進学指導充実

過去問題、受験指導テキストの購入等や受験サプリの対応できるパソコンの設置を行いS-naviの充実を促進し、個々の受験力の向上を図った。

進学実績	卒業生	152名		(昨年度	192名)
大学		106名	69.7%	(107名	55.7%)
短期大学		16名	10.5%	(33名	17.2%)
専門学校		16名	10.5%	(29名	15.1%)

NEXT5 進学率 4大+短大で80%を達成！尚、難関大学への進学は、大学の定員厳格化の影響を受け、昨年度より後退したが、猛省し次年度の進路指導に活かしていきたい。

<主な合格及び進学大学>

日本大学、東洋大学、駒澤大学、武蔵大、国士館大学、北里大学  
東京家政、明星大学、東海大学、大妻女子、  
貞静学園短期大学、淑徳大学短期 他

(イ) 運動環境の充実

人工芝の補修、運動器具の補修等を行い運動活動の充実に努めた。  
体育祭の会場の確保及び運営等への対応に関する費用補助を行った。  
PTAとの折半でバスケットのゴール補修など部活動の活性化に取り組んだ。

(ウ) ICT教育

2FのWi-Fi環境を整備し、タブレットを中学校30台、高等学校30台を購入し、数学、英語、理科及び総合学習等でタブレット型を活用した教育を推進し、これからのプログラミング教育やICT教育への足掛かりに努めた。

3. グローバル教育の推進について

(ア) JETプログラムの活用について

都教委から2名のALTの派遣を頂き、英語の授業や修学旅行に向けた語学研修、放課後のクラブ活動の補助、ハロウィンのイベント等で活用し、国際交流が深まった。学校に常在しての勤務形態なので、突発的な授業の変更や活動への対応等への柔軟な

取り組みが出来た。英検のヒアリング等の活動で指導効果を上げている。

(イ) 英検上級クラス取得化の促進

準1級	1名（昨年度0名）	合格率	100%（昨年度0%）
2級合格者	11名（昨年度15名）	合格率	11%（昨年度25%）
準2級合格者	69名（昨年度44名）	合格率	24%（昨年度16.5%）
3級合格者	104名（昨年度60名）	合格率	43%（昨年度32.4%）

2級合格率が低下しているのは、受験者数が増加したことによるものである。

かつては特進の生徒に限られた準2級・3級の合格者が総進或いは幼教クラスからも受験者数と合格者数が増加してきている。

(ウ) ブリティッシュヒルズでの英語体験活動について

中学2年、高校2年の生徒を対象に4月下旬に、高校1年（修学旅行が11月に変更のため）は11月に福島県で2泊3日の語学研修を実施し、英語及び英国の文化等に慣れ親しむことが出来た。

(エ) 平成29年度実施海外修学旅行準備について

3月のオーストラリアへの修学旅行に向けて、事前準備及び修学旅行を実施し、安全で健康的な内容にて無事終了することが出来た。2日間のホームステイと自分の所属するコースに合った学校見学により大きな成果を上げた。

(オ) 国際交流推進について

7月の語学研修（ホームステイ）ニュージーランドへ11名を派遣し、異国文化の交流が成されると共にホームステイでの主体性の伸張が見られた。また、人材育成基金の活用により各家庭の負担軽減に大いに役立った。

#### 4 教員の教育力の向上

校内では7月末には救急救命講習会を開催し、安全指導の研修会を行った。校外では、随時私学教育研修所主催の研修会へ参加が自主的に行われ、初任者研修、中堅研修、進路、生徒指導、教務、教頭等の職階や各教科各分野で参加し、日々の業務において成果を上げている。その他にも各大学主催の進学説明会へ参加するなど、教師としての資質向上に取り組んだ。

#### 5. 災害時の備え

転倒防止処置については、業者と警備会社のアドバイスを受け、昨年度より計画的に進めている。防災備蓄用品の購入を進めた。非常用電源として発電機及び照明器具を購入し、災害発生に備えるなど安全管理を推進した。

#### 6. 校舎の維持管理

各月の管理業務予定表を基本に校舎の維持管理に努めている。校舎の耐用年数及び各施設の老朽化等の対応については、担当者と業者との連携をもって状況に応じて修繕等の対応と共に、校舎の維持管理に努めている。エアコンの老朽化等の修繕計画を策定し、第2期の工事を夏期休業中に実施し、教育環境の改善に努めている。

## ●幼稚園

### 1. 園児募集活動の強化

募集に関する取り組みとして、体験・見学会、入園説明会、おゆうぎ会見学に加え、ホームページによる保育活動の発信を年間59回行い、入園希望者に対して、幼稚園の保育活動に関する情報を伝えた。

また、入園案内を新しく作成し、入園希望者に配布した。さらにホームページをリニューアルし、園のイメージアップに取り組んだ。

体験・見学会では、年少組のクラスに入って在園児と一緒に保育体験を行い、受験者の増加に結びついた。

	募集定員	応募者数	受験者数	合格者数	入園者数
3年保育	40名	61名	61名	61名	48名

### 2. 保育力の向上

教員の保育力を強化するため、外部の研修会に参加し、その内容を全教員で共有することにより、保育の指導力を向上させた。

園内においては、講師を依頼し、リトミック講習、体操指導の研修会を実施した。

保護者アンケートを実施した結果は、満足度が93.8%（昨年度95.0%）となっており、引き続き高い評価を受けることが出来た。

### 3. 英語指導の充実

本園の特色の1つである英語学習を更に充実した物にするため、昨年度に引き続き、(株)シェーンコーポレーションに外国人講師の派遣を依頼し、課内・課外のキッズ英語を実施した。

課外キッズ英語は年中組の希望者が多く、2クラスで開講した。

### 4. 保育環境の整備充実

保育環境の整備事業として、①職員室兼保健室の空気清浄機設置 ②遊戯室エアコン取り替え工事を行った。また、園庭の滑り台横の木の接触を防止する為マットを設置した。

災害時の備えの強化のために、非常食の補充を行った。

### Ⅲ. 財務の概要

#### (1) 貸借対照表の推移

	27年度	28年度	29年度
固定資産	6,225,871,414	6,141,401,731	6,063,940,146
流動資産	778,465,870	835,806,576	749,688,564
資産合計	7,004,337,284	6,977,208,307	6,813,628,710
固定負債	55,422,465	49,689,876	46,793,898
流動負債	364,025,703	426,507,538	363,267,080
負債合計	419,448,168	476,197,414	410,060,978
基本金合計	7,696,575,173	7,743,646,781	7,740,690,919
繰越収支差額合計	△ 1,111,686,057	△ 1,242,635,888	△ 1,337,123,187

#### (2) 事業活動収支計算書の推移

教育活動収支	27年度	28年度	29年度
学生生徒等納付金	776,738,350	744,626,450	674,505,300
手数料	14,601,190	13,785,910	13,118,360
寄付金	8,020,730	6,968,150	3,287,050
経常費等補助金	413,984,656	427,771,305	425,781,544
付随事業収入	5,814,744	7,087,155	7,148,746
雑収入	8,905,580	6,672,896	10,720,974
教育活動収入計	1,228,065,250	1,206,911,866	1,134,561,974
人件費	825,880,712	849,555,358	818,603,677
教育研究費	379,014,604	356,179,278	350,781,991
管理経費	58,315,243	73,981,740	73,826,899
徴収不能額	226,179	19,651,043	201,710
教育活動支出計	1,263,436,738	1,299,367,419	1,243,414,277
教育活動収支差額	△ 35,371,488	△ 92,455,553	△ 108,852,303

教育活動外収支	27年度	28年度	29年度
受取利息・配当金	3,198,156	2,084,736	1,357,427
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	3,198,156	2,084,736	1,357,427
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	3,198,156	2,084,736	1,357,427

経常収支差額	△ 32,173,332	△ 90,370,817	△ 107,494,876
--------	--------------	--------------	---------------

特 別 収 支	27年度	28年度	29年度
資 産 売 却 差 額	0	0	0
そ の 他 の 特 別 収 入	21,922,083	6,601,366	10,223,696
特 別 収 入 計	21,922,083	6,601,366	10,223,696
資 産 処 分 差 額	89,190,338	92,632	82,031
そ の 他 の 特 別 支 出	2,702,691	16,140	89,950
特 別 支 出 計	91,893,029	108,772	171,981
特別収支差額	△ 69,970,946	6,492,594	10,051,715

基本金繰入前当年度収支差額	△ 102,144,278	△ 83,878,223	△ 97,443,161
基本金繰入額合計	△ 60,000,000	△ 47,071,608	0
当年度収支差額	△ 162,144,278	△ 130,949,831	△ 97,443,161
前年度繰越収支差額	△ 1,219,811,296	△ 1,111,686,057	△ 1,242,635,888
基本金取崩額	270,269,517	0	2,955,862
翌年度繰越収支差額	△ 1,111,686,057	△ 1,242,635,888	△ 1,337,123,187

### (3) 主な資産、負債の状況

#### 1. 施設設備の状況

当法人の校地は、東京都文京区大塚に約5,380㎡あり、この他に東京都文京区小日向に短期大学校地が約2,674㎡、茨城県取手市に運動場として約1,459㎡、さらに群馬県吾妻郡に研修施設として約38,601㎡を所有している。

また、校舎は東京都文京区大塚に中学校・高等学校並びに幼稚園として約10,486㎡あり、この他に東京都文京区小日向に短期大学校舎として約4,615㎡、さらに群馬県吾妻郡に研修施設として約2,985㎡を所有している。

#### 2. 借入金の状況

	返済期限	担保等	借入残高
財団法人東京都私学財団	平成31年3月10日	無	1,000,000
財団法人東京都私学財団	平成32年3月10日	無	1,800,000
財団法人東京都私学財団	平成33年3月10日	無	800,000

#### 3. 決算日後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

特になし